

家庭教育力の強化を図る

学校・家庭・地域との連携を深めるPTA活動を目指して

稲沢市立丸甲小学校PTA

1 はじめに

本校は稲沢市の西部に位置し、銀杏で有名な祖父江町にある。校区は植木や田畑が多く豊かな自然に囲まれた環境である。天保10年に寺子屋（塚北堂）として創立され、市町村合併などを経て、現在の稲沢市立丸甲小学校となる。学校規模は、児童数114名、学級数は8学級（通常学級6、特別支援学級2）、PTA会員数は90世帯の小規模校である。

校訓「進んで勉強する子 仲良くきまりを守る子 じょうぶで働く子」を基に、「やる気」「元気」「よき仲間」にあふれた学校づくりを目標に、家庭や地域と連携し、教育活動を進めている。



【丸甲小学校校舎】

2 研究への取組

(1) PTA組織

本校のPTA役員は、会長・副会長・家庭教育委員・会計・会計監査の6名である。また、各地区から選出される数名の地区選出委員を合わせて、今年度は15名で構成されている。

委員会には、企画・文化委員会、厚生委員会、研修委員会があり、それぞれ次のように活動を計画し、実施している。

- ・企画・文化委員会…児童の健全な育成や教育活動の振興に資する事業の企画と推進
- ・厚生委員会…児童の福祉・保健衛生に資する事業の企画と推進
- ・研修委員会…会員相互の親睦や家庭教育の向上等に資する事業の企画と推進

(2) 研究のねらい

学校と家庭が力を合わせて、子どもたちの健やかな成長を図ることを目的としているPTAにおいて、家庭教育力の強化を図ることは、子どもたちや保護者・地域・学校にとって重要である。そのために、PTAが主体となって家庭の教育力そのものを高めることはもちろん、学校の教育活動や地域と連携した取組を進めることが必要であると考え、実践に取り組んだ。

3 実践活動の概要

(1) 子どもの健康と安全を守る取組

① 給食試食会

学校給食を通して、保護者に家庭での食の大切さを再認識してもらうとともに、学校給食の在り方について理解を深めてもらうことを目的として、新1年生の保護者を対象に実施している。

保護者は、家庭科室で栄養教諭から、学校給食の意義や在り方、栄養バランスのよい食の大切さなどについて話を聞いた後、1年生の教室へ移動し、子どもたちの給食準備の様子や会食の様子も見学した。その後、家庭科室に戻り、保護者同士で協力して準備をし、会食をした。

参加した保護者からは、「子どもたちのために食材や味付けにこだわって、安全に配慮しておいしく作っていただいていることが分かりました」「低予算で満足するボリュームでした。家では食べない野菜や魚も味付けの工夫で、『食べられた』と話してくれるのでうれしいです」「家庭でもなかなか摂取する事が難しい栄養素を工夫して摂れるようにしようと思います」「食中毒や誤飲事故などが起こらないように工夫して頂きありがとうございます。今後も安心・安全な給食をよろしくお願いします」という感想が寄せられた。栄養バランスや味付けなどによる食の大切さを確認するとともに、学校給食への理解を深めることができた。

② 学校保健委員会

本校の学校保健委員会は、児童、教員だけでなく、希望する保護者も参加している。「自分の健康は自分で守ろう」をテーマに、養護教諭による児童の健康に関する実態調査報告とともに、毎年、専門の講師を招いて研修会を行っている。令和6年度は、地域でランニングコーチをされている安藤嘉則先生に「からだスイッチ」の演題で講演していただいた。日頃、動かしていない筋肉や関節を意識して動かすことを「からだスイッチを入れる」と称して、室内でも椅子に座ったままでも、いつでも、どこでもできる体操を教えていただいた。

参加した児童や保護者から、「簡単で分かりやすかったので、家でもひまが



【栄養教諭の話を聞く様子】

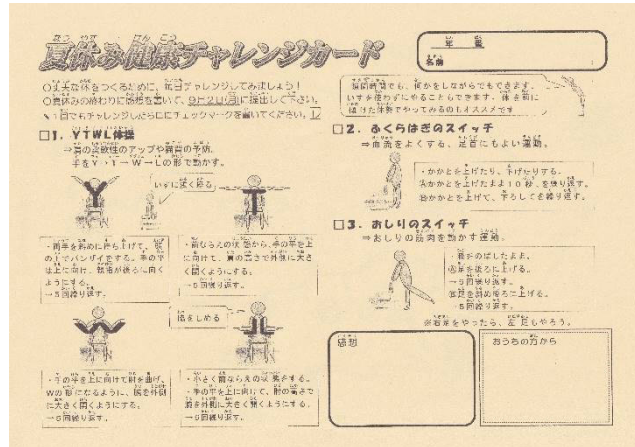


【会食の準備をする様子】



【体操を体験する様子】

あったらやってみたい」「いすから立ち上がるときに、膝が痛くならないように立つやり方をおじいちゃんに教えたら、喜んでもらえた」「猫背の姿勢が気になっていたので、肩を開く運動を子どもと一緒に家でやってみようと思いました。走り方の指導も聞けてよかったです」「簡単な運動で、少しの隙間時間でできることを教えていただけ、とても参考になった。できるだけ毎日続けられるようにしたい」など、体験したことを家でも実践していきたいという前向きな感想が多く見られた。



【健康チャレンジカード】

事後、この研修会で学んだ体操を健康チャレンジカードにまとめ、夏休みの課題の一つとして、すべての児童や保護者にも紹介し、家庭での取組に生かしてもらおうようにした。チャレンジカードの保護者の振り返りには、「楽しくみんなと笑い合いながら運動ができました」「Y T W L体操は座って楽しくできました。Lが意外につらかったです。ふくらはぎの運動は、家で料理をしながら続けていきたいと思います」「普段しない運動を子どもと一緒に取り組めてよかったです」「子どもと一緒にストレッチして、体も心もすっきりしました」などの感想があった。学校保健委員会をきっかけに、親子が一緒に健康な生活習慣づくりをするよい機会となった。

(2) 親子の触れ合いを大切にした取組

① 親子教室

「親子で学ぶ」「親子のふれあい」をコンセプトに、親子教室を毎年開催している。令和5年度は夏休みにP T A役員が講師となり、「親子教室～液体万華鏡づくり～」を行った。令和6年度は、校区にホテルの保護地区があるという特色を生かし、地域について知り、愛着をもつとともに、親子の会話が



【ホテルの話を聞いている様子】

が増えることを期待して、P T A主催で「親子教室～親子で学ぶホテル観察会～」を実施した。N P O法人祖父江のホテルを守る会の理事長山内晴雄先生を講師に招き、体育館でホテルの種類や生態などについてクイズや写真、動画を交えながら話を聞いた。その後、学校から歩いて10分ほどのホテルの保護地区へ移動し、ホテルを観察した。ホテルの優しい光を見つけると、「わぁ」と歓声があがった。また、「幼虫が光ってるよ」「見て、あそこにいるよ」と親子で声を掛け合う様子が見られた。

参加した保護者からは、「ホタルを見るだけでなく、成虫になるまでの一生や生態の話を聞くことができたのでよかったです。初めて知ることばかりで、子どもも興味津々で聞いていました」「祖父江町内のホタルの生息数が激減しているので、自分のできることを考え、自然を大切にしていきたいと思いました」「小学生になり、少しずつ一緒に何かをするという時間が減ってきた中、こうして子どもと一緒に時間を過ごすことができ、とてもうれしかったです」「こんなに近所で野生のホタルを見ることができると思っていなかったので感動しました。また、親子で一緒に体験できたことがよい思い出になりました。祖父江のホタルについて参加していない他の家族にも伝えていきたいです」などの感想があった。地域の自然の豊かさやそれを守る大切さを知るとともに、親子で一緒に体験し、そのことについて話し合うよい機会となった。

② 布智っ子祭への出店

本校の学校行事の一つに「布智っ子祭」がある。これは、子どもたちが創意工夫を凝らしたお店をつくり、保護者や地域の方々も招待し、子どもたち同士はもちろん、地域ぐるみの交流を楽しむというものである。その「布智っ子祭」にPTAも毎年お店を出している。企画・文化委員が中心となり、



【ゲームを楽しむ様子】

お店を企画し、PTA委員全員で運営している。

令和5年度は、「ダンシングスーパーボールうつし」のお店を出した。曲の一部で決められた振り付けを踊り、箸でスーパーボールをつかんで皿から皿に移すゲームであったが、子どもたちも保護者も地域の方も楽しむ姿が見られた。令和6年度も2月に「布智っ子祭」を予定している。今後、子どもたちも保護者も地域の方も楽しめ、触れ合えるお店を企画し、PTA委員全員で協力して実施する予定である。

4 おわりに

今回の研究を通して、PTA活動が、家族の健康や安全、PTA会員同士のつながりや家族の触れ合いなど、家庭教育力強化のきっかけになっていると実感することができた。また、家庭・地域・学校が連携し、家庭での教育力を高めながら子どもたちの健やかな成長を支えていきたい。

共働きの家庭が増え、PTA活動への参加が難しくなっているように感じる。しかし、社会環境が変わっても、学校と家庭が力を合わせて、子どもたちの健やかな成長を願っていることは変わらない。そのために、家庭教育力の強化を図りつつ、「無理がなく意味のあるPTA活動」にしていくことが必要である。PTA活動の負担軽減を図りながら、子どもたちの健やかな成長のために持続可能なPTA活動を目指していきたい。